【現代語訳】

問1　訳：「（たがいに）恥ずかしがり合っていた」。
幼なじみとして井戸のそばで遊んでいた**男と女（の二人）**が、大人になったため、たがいに気恥ずかしく思い合っていたのである。「恥ぢかはす」は「恥づ」＋相互の意を表す「かはす」で、「たがいに恥ずかしがる」の意。

問2　訳：「（私の背丈は井筒を）越してしまったらしいなあ」。

問3　訳：「あなた以外の誰のために（髪を）結い上げたりしようか、いや、あなた以外の人には結い上げたりはしません」。

問4　訳：「（女は親が他の男と）結婚させようとするが、それを聞き入れずにいた」。――女が、親のすすめる縁談（他の男との結婚話）を聞き入れなかったのである。

問5　訳：「（親を亡くし、頼りなくなった妻と）いっしょに生活のしようもないさまでいてよいものか、（いや、よくない）と思って」。「やは」は反語を表す。

問6　訳：「（高安の女が自ら飯を盛る姿を）不快に思って、（高安へ）行かなくなってしまった」。「心憂し（うし）」は「いやだ、不快だ」の意。

【和歌の解釈と修辞】

問7　幼いころ井筒（井戸の囲い）と高さをくらべ合っていた自分の背丈が、（久しく会わないうちに）その井筒を越えるほどに伸びてしまったらしい、と**自分の成長**を詠んだ歌。あわせて「あなたに会わないうちに大人になりました（だから結婚しよう）」という求婚の気持ちをこめている。「丈」は**井筒（の高さ）**と比べられている。

問8　男が「背が伸びた（大人になった）」と詠んだのを受けて、女も「子どものころあなたとくらべ合っていた**振り分け髪（幼児の髪型）**も肩を越すほど伸びました」と返した歌。「**あぐ（髪上げ＝大人の女性の髪型に結うこと、結婚をも意味する）**」を用いて、「あなた以外の誰のために髪を結い上げたりしません」と、男の求婚に**承諾して思いを返す**気持ちを表している。

問9　修辞は**掛詞（かけことば）**。「たつ」に、（白波が）「**立つ**」と地名の「**竜田山（たつた山）**」の「たつ」とを掛けている。また上の句「風吹けば沖つ白波」は、同音の繰り返しで「たつ」を導き出す**序詞（じょことば）**のはたらきをしている。

問10　夫が夜ふけに竜田山を越えて高安の女のもとへ一人で通っていく道中を**気づかい、案じる**心情。怒りや嫉妬ではなく、夫の身を思いやるけなげな愛情（妻の**貞節**）が表れている。この歌を物陰で聞いた男は「かぎりなくかなしと思ひて（このうえなくいとしいと思って）」、その後**河内（高安の女のもと）へ通わなくなった**。

【文法】

問11　「過ぎ＋に＋けらし＋な」と分ける。「に」は完了の助動詞「ぬ」の連用形、「けらし」は過去推定の助動詞「けらし」（＝「けるらし」の縮まった形。…たらしい・…てしまったらしい）、「な」は詠嘆の終助詞。訳：「（私の背丈は井筒を）越してしまったらしいなあ」。

問12　(1)「べき」は**適当・当然**の助動詞「べし」の連体形（「…するのがふさわしい・…するはずだ」）。(2)係助詞「か」を受けて文末が連体形「べき」で結ばれる**係り結び**であり、ここの「か」は**反語**。（「あなた以外の誰のために髪を結い上げようか、いや結い上げない」の意。）

問13　「なむ」は**係助詞**（強調）。係助詞「なむ」を受けると文末は連体形で結ぶという**係り結び**の規則があるため、助動詞「けり」が連体形「ける」で結ばれている。

問14　「得め」の「め」は助動詞「む」の已然形（ここでは「こそ」の係り結びで已然形結び）で、**意志**を表す。「（男は）この女をこそ妻に得ようと思う」の意。

問15　「らむ」は**現在推量**の助動詞「らむ」の連体形（「今ごろ…しているのだろう」）。「にや」の下には「**あらむ**」（「あり」＋推量の「む」）が省略されている。係助詞「や」の係り結びで、本来は「夜半にやあらむ…こゆらむ」という形。

問16　「にやあらむ」＝断定の助動詞「なり」の連用形「に」＋係助詞「や」（疑問）＋ラ変「あり」の未然形「あら」＋推量の「む」の連体形（係り結び）。訳：「（夫に）浮気ぐさな心があってこう（快く送り出す）のだろうか」。

【語句】

問17　「本意（ほい）」＝かねてからの願い・本来の望み（ここでは結ばれたいという二人のもとからの思い）。

問18　「うちとけて」＝気をゆるして・うちとけて（とりつくろわなくなって）。ここでは高安の女が気を許してとりつくろわなくなったことをいう。

問19　「心にくし」＝奥ゆかしい・上品でしとやかだ。「はじめこそ心にくくもつくりけれ」＝「はじめは奥ゆかしく上品にふるまっていたが」の意。

問20　「前栽（せんざい）」＝庭先に植えた草木・植え込み。男はその草木の茂みの中に身を隠して妻の様子をうかがった。

【内容理解】

問21　前半では、親がすすめる他の男との縁談を拒んでまで幼なじみの男を思い続ける、一心な**純愛**の人として描かれる。後半では、夫が他の女のもとへ通っても怒りや嫉妬を見せず、かえって夫の身を案じる歌（「風吹けば…」）を詠む、けなげで**貞節**な妻として描かれる。この一心さと思いやりが、男の心を再びもとの女に引き戻させる。

【文学史】

問22　(1)**歌物語**。(2)**在原業平（ありわらのなりひら）**。(3)「**昔、男ありけり**」（多くの章段がこの書き出しで始まる）。『伊勢物語』は、和歌を中心に短い章段を連ねた歌物語で、主人公の「男」は在原業平がモデルと

考えられている。

© 誰でも古典塾　kotennosennsei.com